

無線従事者国家試験の攻略手法(曾根式)

一般に国家試験は、「やる気」・「基礎力」・「傾向対策」で合格できるものと考えています。無線従事者国家試験も同様です。(ただ、これらの内一つでも達成度0パーセントなら、恐らく合格できません。)これらの中で「やる気」は、ほとんどの受験生はあると思います。また「基礎力」も日ごろからの勉強でしっかりあると思います。しかし、応用力まで出てくる場合や重箱の隅までねらってくる場合は、大変です。そこで切り札になるのが「傾向対策」です。無線従事者国家試験研究室では、この「傾向対策」として「無線従事者国家試験のねらいどころ」をズバリ的中させたいと考えています。

無線従事者国家試験は、過去問題とよく似た問題が多く出題されています。ですから過去問題を中心に勉強されることが合格への近道です。しかし、過去問題数は非常に多く、理解・記憶していくことは大変です。そこで、過去問題を次期の試験に対しての重要度で格付けしてみることにより、強弱を持たせて理解・記憶を促進させます。(このことは、皿回しによく似ているという意見があります。よく回る皿と回りにくい皿があっても強弱を付けて回します。後は逐次皿に触れるだけで、最終的に全部回っているようにします。)結果として、試験のとき過去問題の多くの問題を理解・記憶していることになるでしょう。**理解・記憶を促進させるために、強弱すなわち重要度のランク付けをした本資料に示す「ねらいどころ」がお役に立つものと考えています。**

さらに詳述すれば、まず受験雑誌の傾向表の項目ごとに、過去問題をその解答の指針等を参考に勉強します。そのとき学校等で使用した教科書や受験用の書籍(東京電機大学出版社や電気通信振興会)を使います。

その場合、本「ねらいどころ」で**強弱して**過去問題をマスターすれば、より効率的に理解・記憶することになると考えています。

工学科目において、25問(A問題=20問、B問題=5問)中、15問できれば合格です。したがって、少なくともA問題のうち10問題は本「ねらいどころ」による指摘で攻略し、B問題は、本「ねらいどころ」多肢選択式テクニックにおいて2~3問を攻略します。残り3~2問は、本「ねらいどころ」多肢選択式テクニックを有効に活用します。

もちろん、学校等での基礎勉強により、更なる問題を攻略できると考えられます。